

5G通信

Vol.17



いま話題の次世代通信『5G』に関する
とっておきの情報をご紹介します

インフラ整備期における注目業界 —通信計測機器編—

5G商用化に向けたインフラ整備期である現在、研究・開発や実証実験で活躍している縁の下で力持ち「通信計測機器業界」についてご紹介します！

通信計測機器業界とは？

- 通信計測機器とは、電波を「見える化」し、品質維持や国・地域ごとの基準遵守のため、通信ネットワークや製品の性能・動作をテストする装置や機器をいいます。
- 通信インフラ投資の初期段階で需要が増加する傾向にあり、技術的な参入障壁が高いため、限られた主力企業による競争が行われる収益性の高い分野とされています。

5G移行期のいま注目される3つの理由

1 新たな周波数帯の利用

- 通信計測機器は、新しい通信規格を導入する際に、ネットワークの正常な動作を確認する上で必要なものです。
- 5Gの場合、新たに高周波数帯の電波が使用される可能性が高いことから、新たな周波数帯に対応できる通信計測機器の開発も行われています。

2 ミッションクリティカル*分野で求められる高信頼性

- また5Gに期待される新たな用途として、遠隔手術や自動運転など人命に関わるようなミッションクリティカルなサービスが想定されることから、これまで以上に厳重に、かつ様々な環境で通信ネットワークの動作確認を行なうことが重要になります。
- 5Gの特徴である「高速・大容量」、「超低遅延」を活用するために、通信インフラが正常に動作し続けることの重要性が高まると考えられます。

*ミッションクリティカルとは、障害や誤作動による停止や遅延が許されない重要な要素のこと。

3 通信テストの多様化・複雑化

- 3Gから4G移行の際には、モバイル通信の高度化が進み、動画視聴やテレビ電話の普及が進みました。
- 5Gでは携帯端末のみならず、モノとモノをつなぐIoT(モノのインターネット)の世界で、あらゆる環境における様々な機器との接続性や親和性が重要となるため、通信テストの多様性・複雑性が増すと考えられています。

通信計測機器業界のミッション

いつでも快適に動く端末の開発

- ✓ スマートフォンなどの端末の動作確認、アプリの開発、バッテリー寿命試験など



どこでもつながる社会を目指す

- ✓ 山頂など、つながりにくいエリアでのネットワーク動作確認など



主な関連企業

- キーサイト・テクノロジーズ <NYSE上場>
- アンリツ <東証市場第一部上場>
- ナショナル・インスツルメンツ <NYSE上場>
- テラダイン <NYSE上場>

※写真はイメージ図です。



【 ご留意事項 】

- 当資料はニューバーガー・バーマンの情報を基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。